

埋文よこはま16



ジェラール製レンガ

財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 平成19年9月28日発行

近・現代の埋設管を調べる

—中区元町一丁目「水屋敷通り」とその周辺—

◆調査のあらまし

横浜市中区元町一丁目に「水屋敷通り」と呼ばれる幅5mほどの通りがあります。北側の堀川から元町商店街を横切り、元町公園に続く南北の道筋です。この道筋は、元町公園を奥部とする谷の中にあります。「水屋敷」は、明治時代初めに山手居留地77番（現、元町一丁目77番元町公園ほか）でフランス人のアルフレッド・ジェラール（Alfred Gerard）が船舶への飲料水給水会社を営んでいたことに由来します。また、ジェラールは同所で西洋瓦・レンガなどの製造工場も営んでいました。

船舶に給水するため、「水屋敷通り」に堀川まで送水管を敷設していたと伝えられています。調査目的は、これに関する埋設管の有無などを確かめるというものです。

発掘調査は、2005年（平成17）7月27・28日と2007

年2月5・6日の2回行いました。幅1m、長さ1.5～3.5mの調査区7区、計18.6㎡を発掘し、いくつかの新しい発見がありました。

調査は横浜都市発展記念館と共同で行い、環境創造局・水道局・教育委員会の横浜市関係部局、東京ガス導管ネットワーク・東京電力株式会社・有限会社ユー・エス・シー街・空間計画にご協力いただきました。

◆試掘調査区について（次ページの調査区位置図参照）

2005年度の調査区（トレンチ＝「T」と表記）は、その名称を算用数字で表し、2007年度の調査区はアルファベツ

ト大文字で表すこととしました。

1T・2T・BT・CTはジェラールの工場敷地内に位置する「第1貯水槽」の外側を探るために設けたものです。「第1貯水槽」が造られた詳しい年代はわかっていません。内部には、北側中央にバルブ付きの鉄管があり、2Tはその外側のように探るために設けました。西側の壁添いには2本一対の鉄管があり、2カ所で貯水槽外に出ています。1T・BT・CTは、これを探るために設けました。CTは1Tの再調査のため、一部重なっています。

3Tと4Tは、ジェラールが堀川まで敷設していたといわれる送水管の有無を確かめるために設けた調査区です。

Aは、南およそ3mにある中間枒ちゅうかんますから「第1貯水槽」に至る管路などを確かめるために設けました。「中間枒」というのは、現在の公園事務所側のより高い位置にある「第2貯水槽」から流れ出る水を受けて「第1貯水槽」に導く役割をもっていたと考えられる施設です。

なお、2～3Tを除く調査区は、ジェラールの工場が建っていた場所にあたります。1T・CTは、工場入口を入った左手になります。



Bトレンチで見つかった方形ストライプ土管と陶製土管列

◆「第1貯水槽」周辺の調査結果—土管列の発見—

2005年度調査2T、2007年度調査BT・CTの3調査区から土管列が発見されました。2Tの土管列は、外国人墓地側から水屋敷通りに向かって埋設されていました。土管はいずれも素焼すやきで外面に縦方向に筋が入っているもの（ストライプ土管）でした。この種の破片は、フランス領事館・領事公邸跡（現、フランス山）や山手80番館跡（現、ブラフ80メモリアルテラス）などからの出土例が知られていましたが、全体の形や大きさがわかるものとして初めての発見でした。5つ発見され、西側の2点は灰黒色、東側

の3点は^{とうかつしょく}橙褐色に焼き上げられたものでした。

西側から2点目の土管には、受け部が失われており、埋設し直されたものと推定されました。この部分で、下に^{たい}堆積する土に変化が認められることも観察されました。一部を深く掘り下げたところ、「第1貯水槽」のコンクリートが見つかりました。堆積土が変化するところがコンクリートの端と一致していました。つまり、この土管列は、「第1貯水槽」よりも先に埋設され、貯水槽が造られた時に、一部を付け替えたものと判断されたのでした。



1882年(明治15)フランス式2万分の1彩色地図(○印が調査地)



調査区位置図(1/1,000)



2トレンチで見つかった土管列(画面右手が外国人墓地側)

B Tでは、南北方向の土管列が見つかりました。ここでは、方形のストライプ土管に陶製土管がつけられていました。この方形土管は、暖炉の煙道土管の転用品と考えられます。これも全体がわかる初めての発見例です。接合部の隙間には、2点のレンガを詰めていました。陶製土管は3点あり、南側の2点の接合部には、ひと回り大きな土管のかけらが置かれていました。ここで付け替えられていると推定されますが、確かめることができませんでした。



Bトレンチの方形土管と陶製土管の接続部

C Tでは、南東から北西に調査区を斜めに横切るようにストライプ土管列が見つかりました。調査区のやや西側には、南北方向に水道管とガス管があり、これらの埋設時に取り除かれてしまっていました。水道管には「昭和四年横水」の銘がありました。ここで発見された土管は、長さ32cm、外径20cmほどの大きさで、2 Tの土管の筒部の長さのちょうど半分大きさに当ります。

また、調査区西側の壁面には素焼無文の土管の一部がぞいでいました。道路を横切る方向に埋設されています。堆積土の中ごろに焼土層があり、ストライプ土管がこの下にあるのに対して、無文土管は焼土層を掘り込んで埋設されているところから、ストライプ土管が古いものと判断さ

れます。焼土層の形成時期や由来は、残念ながらまだわかっていません。



Cトレンチの土管列(上)と調査区西壁で見つかった土管(下)

◆「中間枡」付近の調査結果

A Tでは陶製の土管列が見つかりました。ほぼ南北方向に埋設されています。方向はC Tに向いていますが、C Tのものより径が大きく、両者の関係はよくわかりません。この調査区では、3～4層の焼土層があり、最も上にある焼土層を掘り込んで埋設されていました。

土管列の西側には、レンガを長方形に組み、内部に小石を詰めた遺構いこうが見つかりましたが、何のためのものか不明です。この下には、最上層の焼土面があり、レンガ組み遺構との間からたくさんいこうのジェラール瓦のかけらが敷き詰められたように出土しました。ここでも焼土層の年代の特定などができていませんが、いずれかの焼土層は「関東大震災」時の火災に由来するものと思われる。



Aトレンチの土管列とレンガ組み遺構

◆「水屋敷通り」の調査結果

道路西側には管径60cmの下水管が存在し、この管の埋設時に大きな溝が掘られ、かなり乱されていました。

3 Tでは、下水管の脇からコールタールでコーティングされた金属管が見つかりました。板材を丸めて作られており、その合わせ目は2 cmほどあります。外側には、コールタールの接着効果を高めるために麻ひもが巻かれています。大正時代に埋設された可能性が高いと思われます。



3トレンチの発掘状況(上)と切り取った金属管(下)

4 Tでは、南北方向に木材の一部が残っていました。また、これとは別に一辺15cm、断面形方形の木管が調査区の南壁と北壁で確認されました。これらは導水管の可能性がありますが、残念ながら水分を含んで柔らかくなっていたため、発掘の際に気付かずに壊してしまいました。

◆新たな課題

ジェラールが埋設した導水管を特定することができませんでしたが、「水屋敷通り」とその周辺には、さまざまな管が埋設されていることがわかりました。「関東大震災」後から現在に至る埋設管についてはほぼ明らかですが、それ以前の埋設管は、あまりよくわかりません。なかでも排水用とみられるストライプ土管は、明治初期に埋設された可能性が高く、これらの管路をつきとめることも新たな課題となりました。この地域で陶製土管が使われ始める時期も、まだわかりません。ジェラルの工場地で認められた焼土層の由来と形成時期も新たな課題といえます。

なお、ストライプ土管は、その特徴から機械で成形されていることがわかります。当時、蒸気機関を備えていたジェラルの工場で製造されたと推定されます。

横浜の考古学と三殿台遺跡

—三殿台考古館開館40周年記念—

第1回 11月8日(木) 遺跡の発見から全面発掘まで 武井 則道

第2回 11月15日(木) 発掘調査とその成果 鈴木 重信

第3回 11月22日(木) 三殿台のいま 坂上 克弘

◇日時 平成19年11月8日～11月22日、毎週木曜日、連続3回 午後2時～3時30分(受付は午後1時30分から)

◇会場 横浜市歴史博物館 講堂 ◇交通 横浜市営地下鉄 センター北駅下車徒歩5分 ◇定員 140名

◇参加条件 3回参加できる方 ◇参加費 資料代 1,500円 ◇締切 10月24日必着 ◇応募方法 往復葉書に住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、「考古学講座」申込と明記の上、埋蔵文化財センターまで。応募者多数の時は抽選 ◇申込・問合せ (財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 〒224-0034 横浜市都筑区勝田町760 TEL 593-2406 FAX 045-593-2403

文化財ウィーク事業 (主催：横浜市教育委員会)

今年度も横浜市教育委員会が実施する文化財ウィーク事業に協力します。文化財ウィーク事業は各区の図書館を会場として、その地域の文化財や埋蔵文化財を紹介する展示です。

旭区図書館 (TEL045-953-1166)

- ・日時 平成19年10月18日(木)～10月29日(月)
- ・展示内容 写真パネル、上白根おもて遺跡出土遺物など
- ・展示解説 10月27日(土)13:30～、15:00～

山内図書館 (TEL045-901-1225)

- ・日時 平成19年10月30日(火)～11月11日(日)
- ・展示内容 写真パネル、観福寺北遺跡出土遺物など

緑図書館 (TEL045-985-6331)

- ・日時 平成19年11月2日(金)～11月18日(日)
- ・展示内容 写真パネル、殿谷遺跡出土遺物など
- ・展示解説 11月10日(土)13:30～、15:00～

図書館開館時間 火～金曜日は、9:30～19:00

土～月・祝(休)日は、9:30～17:00

問合せ先 各図書館、または埋蔵文化財センターまで
(財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター
(TEL045-593-2406)

国指定史跡 三殿台遺跡 写真展 主催：三殿台考古館

国指定史跡三殿台遺跡を紹介する写真展を中央図書館で開催します。

- ・日時 平成19年10月17日(水)～11月8日(木)
- ・場所 中央図書館
- ・開館時間 火～金曜日は、9:30～20:30、土～月・祝(休)日は、9:30～17:00
- ・問合せ先 三殿台考古館 (TEL045-761-4571)

埋蔵文化財センターのご案内

出土品や整理作業のようすを見学できます(予約が必要です)。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。

開所：午前9時～午後5時。土・日・祝日休み。

交通：東横線「綱島駅」より東急バス1番乗り場「勝田折返所」行終点。田園都市線「江田駅」より東急バス「綱島駅」行「勝田」下車。

ホームページアドレス

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html>

*「埋文よこはま」は、横浜地域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋文よこはま 16

発行日 2007年9月28日

編集・発行 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町760

TEL 045-593-2406

FAX 045-593-2403